

平成 17 年 8 月 10 日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

東北区水産研究所

平成 17 年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
東北区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2005年8月～12月)

来遊量は昨年をやや上回る。
漁期を通して大型魚が主体となる。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び東北区水産研究所のホームページ(<http://www.myg.affrc.go.jp/>)に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は以下のとおりです。
水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当:青木、笠原
〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-1
電話:03-3502-8111(内線 7375)、直通電話:03-3501-5098
ファックス:03-3592-0759、電子メール:mitsuhito_kasahara@nm.maff.go.jp
独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所 企画連絡室
〒985-0001 塩竈市新浜町 3-27-5
電話:022-365-1191、ファックス:022-367-1250、電子メール:www-tnf@ml.affrc.go.jp

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	社団法人漁業情報サービスセンター
北海道立網走水産試験場	東北農政局統計部
青森県水産総合研究センター	海上保安庁第二管区海上保安本部
岩手県水産技術センター	水産庁
宮城県水産研究開発センター	資源管理部管理課
宮城県産業経済部	資源管理部沿岸沖合課
福島県水産試験場	増殖推進部研究指導課
茨城県水産試験場	増殖推進部漁場資源課
千葉県水産総合研究センター	独立行政法人水産総合研究センター
静岡県水産試験場	北海道区水産研究所
	中央水産研究所
	東北区水産研究所

サンマ太平洋北部系群の漁況予報

今後の見通し(2005年8月中旬～12月)

対象海域 北西太平洋(道東沖から常磐沖)

対象漁業 サンマ棒受網

魚体 大きさは肉体長(体長)で表示し、便宜的に大型魚(29cm以上)、中型魚(24～29cm未満)および小型魚(20～24cm未満)と区分した。

(1)来遊量: 来遊量は昨年をやや上回る。

(2)魚体: 漁期を通じて大型魚主体の漁獲となる。

(3)漁期・漁場: 大型船出漁後の漁場は、道東から色丹島沖に形成される。漁場の南下は早く、三陸沖の漁場形成は9月中旬になると予測される。

今後の見通しについての説明

サンマの水揚量は、1990年以降毎年25万トンを超えていたが、1998、1999年にはそれぞれ14.0万トン、13.5万トンに減少し、2000年以降はふたたび20万トンを超えた(2000年:21.2万トン、2001年:26.6万トン、2002年:20.5万トン、2003年:26.0万トン、2004年:20.5万トン)。また、2002年以降の177°W以西のサンマの資源量推定値は、281万トン(2002年)、720万トン(2003年)、341万トン(2004年)と年ごとに増減を繰り返している。このようなことから、近年の北西太平洋におけるサンマ漁場への来遊量は変動が大きい時期にあると考えられる。

本予報は、参画機関が本年の8月までのトロールおよび流し網による漁獲調査と海洋観測の結果に基づいて行った。

(1)来遊量

6～7月に145°E～165°Wの海域で東北区水産研究所(北海道教育庁北鳳丸(用船)、山口県立水産高校青海丸(用船))が中層トロールを用いて漁獲調査を行った結果、155°E以西にはサンマが少なく、155°～171°Eでは連続的に分布が見られたが、175°E～180°での漁獲量は少なかった。広域調査を行った2002年以降と比較すると、2005年のトロール有漁点当たりの漁獲尾数は892尾となり過去最低値であった。しかし大型魚が漁獲の大半を占めたために、漁獲重量は106kgであり、昨年と同程度(106kg)であった。漁獲の主対象となる中型魚以上の資源量(177°W以西)は、359万トンであり、2003年(666万トン)と比較すると54.4%と大きく下回ったものの、2004年(275万トン)の130.5%となりやや上回った。

7月に42°30'～46°30'N、153°30'～162°30'Eの海域で北海道立釧路水産試験

場北辰丸によって行われた流し網調査では、総漁獲尾数、流し網1反あたりの漁獲尾数ともに2004年を上回った。

一方、沿岸を北上した魚群は、前述の東北区水産研究所のトロール調査および日本沿岸で行われた北海道立釧路水産試験場北辰丸、岩手県水産技術センター岩手丸、宮城県水産研究開発センター拓洋丸、宮城県産業経済部新宮城丸、福島県水産試験場いわき丸、茨城県水産試験場いばらき丸、千葉県水産総合研究センター千葉丸の漁期前調査で昨年よりは漁獲および魚群の発見は多かったものの、沖合に比較すると相対的にその量は少なかった。

以上より、本漁期も沖合から来遊する魚群が漁獲の主体となり、調査時の沖合の資源量は昨年を少し上回ったことから、来遊量は昨年をやや上回る。

(2)魚体

東北区水産研究所の6～7月の調査結果から、調査海域全体で大型魚の割合が高かった。このうち177W以西で漁獲されたサンマ大型魚の割合は85%であり、2002年以降最も高い割合となった。また、7月の北海道立釧路水産試験場北辰丸による流し網調査結果でも、大型魚の割合が60%と高かった。以上から、今年の中・小型魚の割合が低く、漁場に来遊する魚群は漁期を通して大型魚主体である。

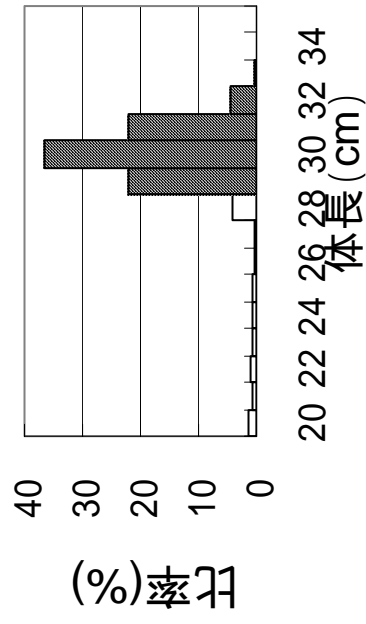
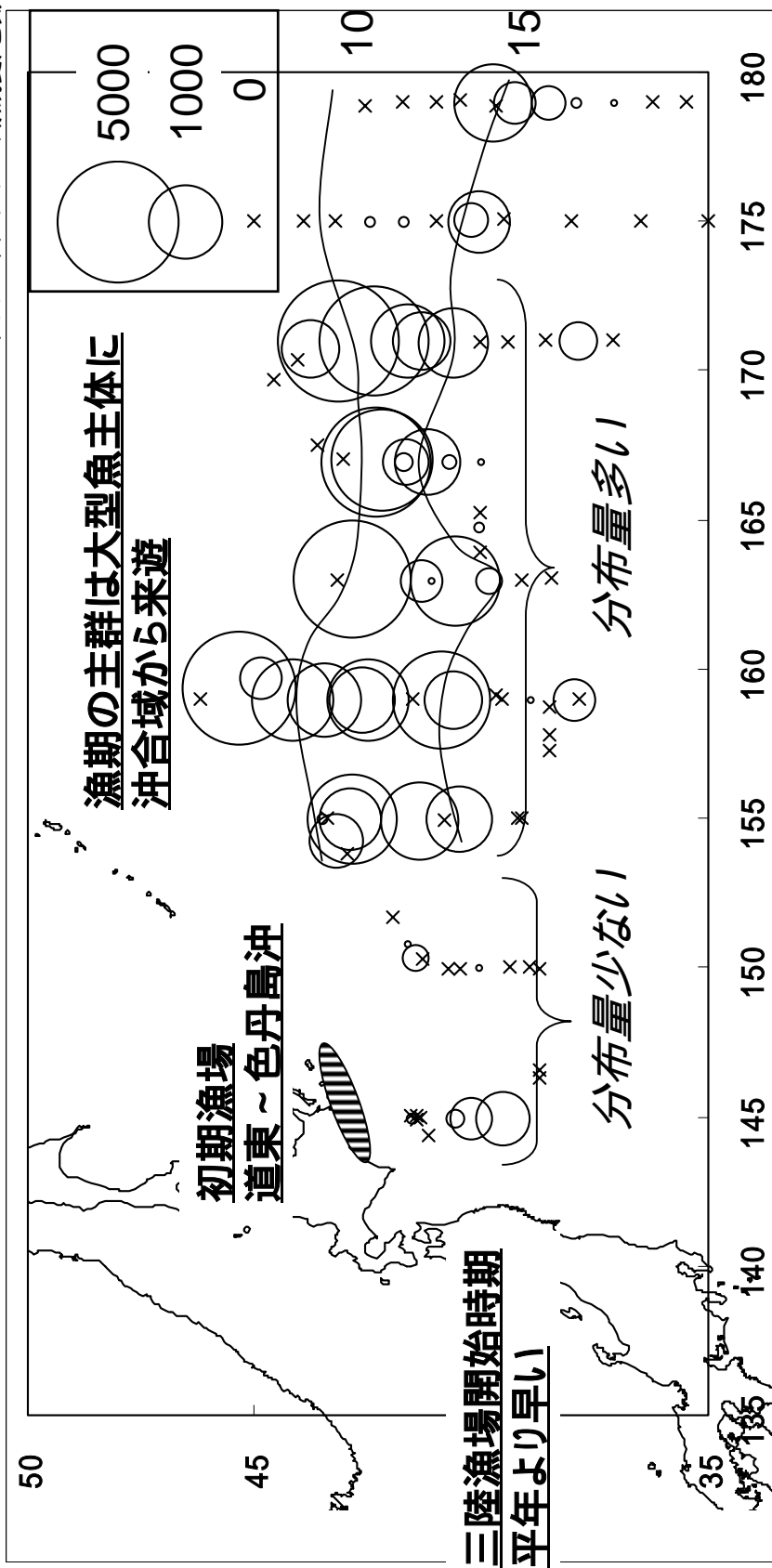
(3)漁期・漁場

東北区水産研究所、北海道立釧路水産試験場の漁期前調査結果ではサンマは表面水温10℃前後で多く漁獲された。8月上旬現在、表面水温10℃の水温帯は択捉島南東へのびている。道東沖には暖水塊があるが、親潮域の水温は昨年より低めであることから、大型船出漁後の初期漁場は道東沖の暖水塊の北側～色丹島南沖に形成される。

親潮第1分枝の張り出しはやや北偏ながらその南に冷水域があること、三陸沖の暖水塊は北東へ移動すること、津軽暖流の東方への張り出しは平年並であることが予測されており、サンマの南下を阻む要因はみられない。従って魚群の南下は早く、三陸沖(41°N以南、143°E以西)における初漁場は9月中旬に形成される。また、三陸南～常磐沖には継続して冷水域が存在するので、常磐沖への南下も早い。

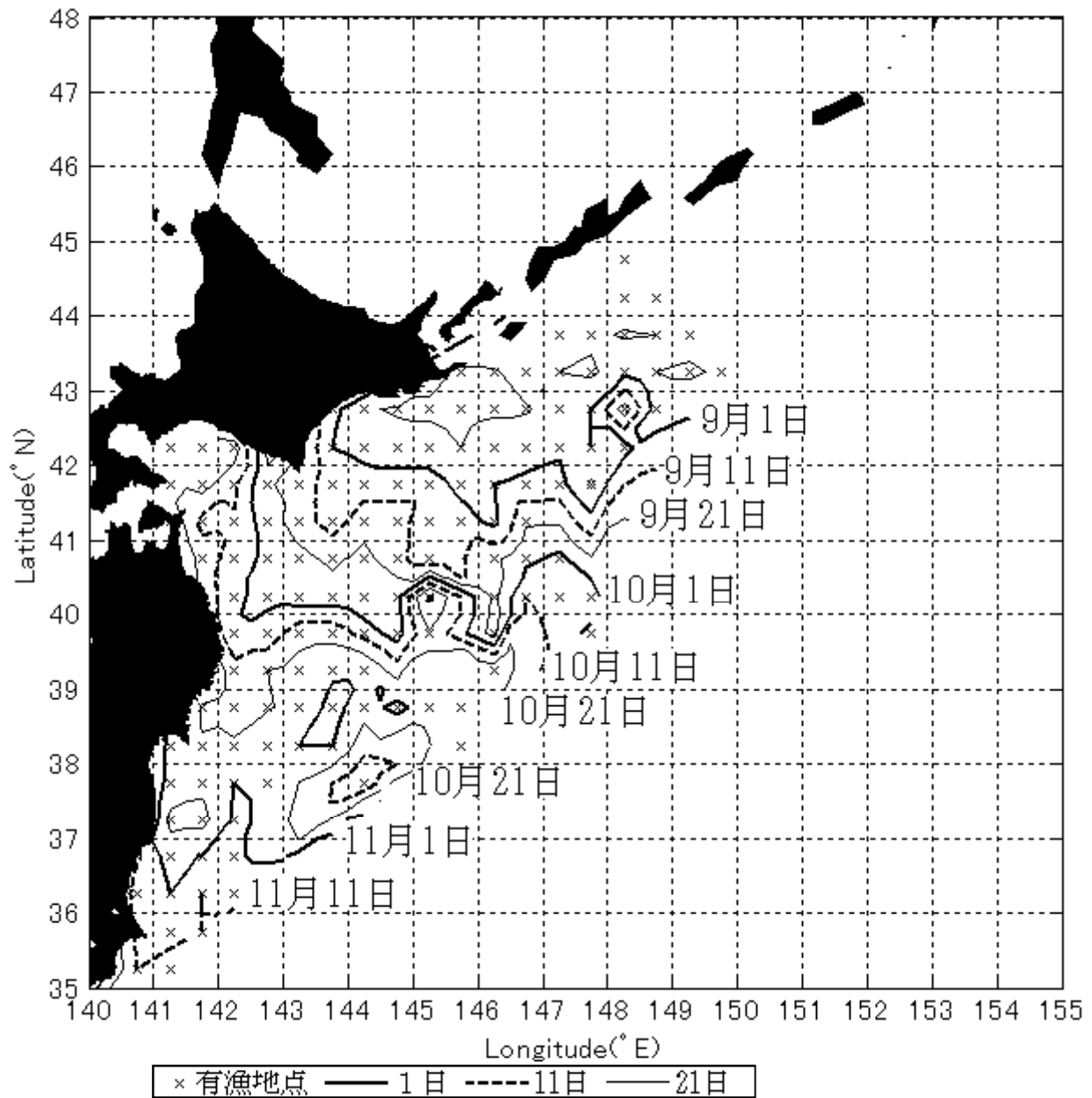
サンマ漁期前調査のまとめと予報の概要

トロールサンマ漁獲尾数



大型魚
85% !

斜体: 調査結果, 下線: 予報



サンマ漁場形成開始日(1993年から2002年の平均値)、漁業情報サービスセンター作成

東北海区海況予報

今後の見通し(2005年9月～11月)

- (1)近海の黒潮の北限位置は、平年並～やや南偏(35°30'N～36°30'N)で推移する。
- (2)黒潮系暖水の北限位置は、近海で南寄りに推移する。
- (3)釧路南東沖合、三陸沖の暖水塊は北東に、常磐沖の暖水塊は北西に移動する。
- (4)親潮第1分枝の張り出しは、やや北偏(41°N以北)で推移し、三陸～常磐近海に冷水域が残る。
- (5)親潮第2分枝の張り出しは、平年並～やや北偏(39°30'N以北)で推移する。
- (6)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並(143°10'E付近まで)で推移する。

海況の経過(2005年1月～2005年6月)の特徴

- (1)近海の黒潮の北限位置は、1月は平年並(36°40'N)であったが、2月以降はかなり南偏～やや南偏(35°20'N～36°N)で推移した。
- (2)1月に三陸沖に現れた暖水塊は2月に北上し、3月以降、釧路の南東沖合に停滞した。5月には三陸沖に、6月には常磐沖に暖水塊が認められた。
- (3)親潮第1分枝の南限は、2月までは著しく南偏～やや南偏(38°30'N)であり、3～4月にやや北偏～著しく北偏(40°10'N～41°10'N)に転じ、5～6月には平年並(40°N)となった。また、2月以降、第1分枝に連なる冷水、あるいは冷水域が、三陸～常磐近海に分布した。
- (4)親潮第2分枝の南限は、平年並～やや北偏(39°30'N～40°30'N)で推移した。
- (5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、1月には平年並であり、2～4月にはやや強勢から著しく強勢となり、5月に平年並となったのち、6月にやや強勢となった。
- (6)東北海区の表面水温は、5月まで平年より低めで推移し、6月に平年より高めになった。

現況(2005年7月)の特徴

- (1)近海の黒潮の北限位置は、やや南偏(36°N)である。
- (2)暖水塊が、釧路の南東沖合約270km、三陸沖約120km、および常磐沖約330kmにある。
- (3)親潮第1分枝の張り出しは、やや北偏(40°40'N)であり、連なる冷水がある。

(4)親潮第2分枝の張り出しは、平年並（ $39^{\circ} 20' N$ ）である。

(5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並（ $142^{\circ} 50' E$ ）である。

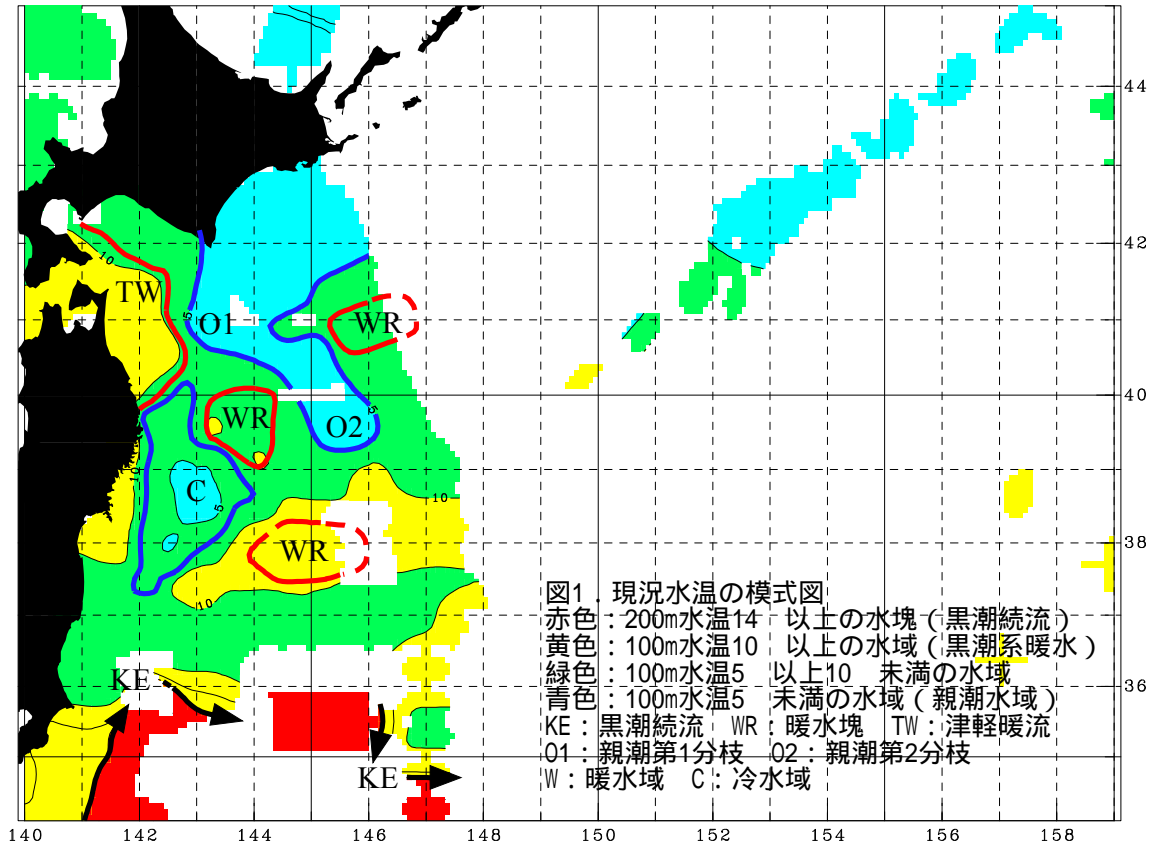
注： 現況および今後の見通しは図を参照のこと。

「近海」は $146^{\circ} E$ 以西、「沖合」は $146^{\circ} E$ 以东を表す。

* 表面水温・人工衛星情報による。

現況 (7月)

SCHEMATIC DATE: 2005/0701 - 2005/0731



今後の見通し (9月下旬を想定)

